

御前埼灯台

参観時間 ◆3月から10月 平日/9時から16時
土日祝日/9時から16時30分

◆11月から2月 9時から16時

※年末年始も参観可能です。
※運轉時は参観時間を15分から20分短縮とさせていただきます。

参観寄付金 ◆大人(中学生以上) 300円

◆子ども(小学生以下) 無料

注意事項 ◆灯台内は強風などの悪天候時には立ち入りできません。
※灯台周辺の散策は可能です。

所在地 〒437-1621 静岡県御前崎市御前崎1581

参観業務・受付 公益社団法人燈光会(とうこうかい) 御前崎支所
TEL 0548-63-2550



下のアクセスマップ「御前埼灯台」の●印部分です

御前埼灯台資料館

開館日時 ◆毎週日曜日/9時から16時

入館料 ◆無料

展示内容 ◆国重要文化財附指定：旧回廊機械分銅自動巻揚装置
御前埼灯台の歴史
御前崎沿岸の海難記録
灯台のある風景
日本の灯台50選
映画「喜びも悲しみも幾歳月」御前崎ロケなどの写真・資料展示

所在地 〒437-1621 静岡県御前崎市御前崎1581(旧官舎内)

運営 御前埼灯台を守る会
防舎先 御前崎市観光協会
〒437-1623 静岡県御前崎市港6099-1
TEL 0548-63-2001

国指定重要文化財

御前埼灯台

National Important Cultural Property
Omaesaki lighthouse
Since 1874



静岡県御前崎市教育委員会

アクセスマップ



御前崎市教育委員会 社会教育課

〒437-1692 静岡県御前崎市池新田5585
TEL 0537-29-8735 FAX 0537-29-8737

2022.2-3(900円)



Weedからから

車利用(東名高速道路 各区間の所要時間)

○相良牧之原IC……………(約30分)

○菊川IC……………(約45分)



鉄道、バス利用(JR)

○JR東海道本線菊川駅下車
静鉄バス 菊川駅前～
浜岡営業所下車(約40分)
御前崎市自主運行バス 御前崎市内線に乗り換:
御前崎海洋センター下車(約30分):徒歩で約10分

○JR東海道本線静岡駅下車
静鉄バス 特急静岡相良線:静岡駅～相良営業所(約1時間10分)
牧之原市・御前崎市自主運行バス 相良御前崎線に乗り換:
御前崎海洋センター下車(約30分):徒歩で約10分

国指定重要文化財 御前埼灯台

御前埼の海を明治7年の初点灯から見守りつづける

静岡県最南端の岬のあるまち、御前崎市。

御前埼灯台は、幕末から明治前半にかけて日本各地の灯台の建設を主導した、英国人技師リチャード・ヘンリー・ブラントンの指導監督によって建設されました。

明治5年(1872)に着工、明治7年(1874)5月1日に初点灯し、その後、灯器を更新しながら使い続けられ、現在も現役の灯台として使用され続けています。



我が国の近代灯台の礎を築いた英国人技師 R・H・ブラントン

御前埼周辺の海域は、黒潮と駿河湾の潮流が激しくぶつかり合う上に多くの暗礁が散在し、昔から海の難所として船人に恐れられてきました。

駿河湾と遠州灘を隔てる岬の先端に建設された御前埼灯台は、日本の近代海上交通史や灯台建築史上において、非常に重要であることから、同時に建てられた市内最古の煉瓦造の旧官舎、附指定の旧回転機械分銅自動巻揚装置とともに、令和3年8月2日、御前崎市初の国指定重要文化財に指定されました。



御前埼灯台の概要

位 置	北緯34度35分45秒、東経138度13分33秒
塗色・構造	白色、塔形(煉瓦・二重円筒構造)
灯 質	単せん白光(10秒に1せん光)
光 度	実効光度560,000カンデラ
光達距離	19.5海里(約36km)
明 弧	221度から104度まで
高 さ	灯台の基礎部から灯台の頂部まで22.4m 平均水面上から灯火まで54.0m 地上から灯火まで17.3m
点灯年月日	明治7年5月1日

指定重要文化財の概要

文化財の名称	御前埼灯台 おおまえきとうだい
年 代	明治7年 灯台、旧官舎 昭和25年 附:旧回転機械分銅自動巻揚装置
員 数	灯台 1基 旧官舎 1棟 附:旧回転機械分銅自動巻揚装置 1式
構造形式	●灯台 煉瓦造(床、階段及び開口部は石造) 建築面積60.54㎡、総高22.47m ●旧官舎 煉瓦造(屋根はアスファルトシングル葺き) 建築面積163.86㎡ ●附:旧回転機械分銅自動巻揚装置 外形:高さ106cm、幅87cm、奥行87cm

所 在 地 静岡県御前崎市御前埼(崎字燈明1581番1)

所 有 者 ●御前埼灯台(灯台、旧官舎)
海上保安庁:東京都千代田区 霞が関二丁目1番3号
●附:旧回転機械分銅自動巻揚装置
御前崎市:静岡県御前崎市池新田3585番地



御前埼灯台



旧官舎(一部を灯台資料館として利用)

灯台と同時期に建てられた、灯台を管理する灯台守の住居などに供した煉瓦造の旧官舎。灯台守の働きを偲ばせる貴重な建物であることから、灯台とともに国指定重要文化財に指定されました。



灯台資料館内の旧回転機械分銅自動巻揚装置

この装置は昭和25年製で、御前埼灯台での分銅を利用した回転灯の巻揚装置を示す重要な遺構であるため、国指定重要文化財「御前埼灯台」の附として指定されました。現在は旧官舎内にある御前埼灯台資料館に展示されていますが、昭和25年から平成15年まで、灯室内の現在免震装置のある場所に設置されていました。

御前埼灯台の歴史



明治5年(1872) 着工当時の様子

海外列強の要求により建設された灯台に続いて、明治政府が主体的に計画した我が国最初期の洋式煉瓦造灯台のひとつです。幕末維新期における近代航路標識整備の最前を知る上で価値が高いとされています。

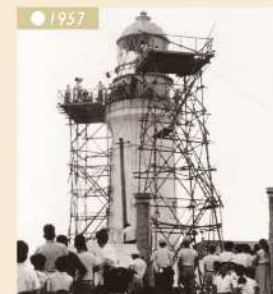
当初は、我が国最初といわれるフランスのソーター・ハーレイ社製の八面回転折射器(レンズ)を使った一等灯台で、二重円筒構造やコンクリートを用いた基礎工事などの新技術を駆使して築かれました。



第二次世界大戦と御前埼灯台

第二次世界大戦中、全国の灯台は昭和17年(1942)の海軍省と逓信省の協定に基づいて防空監視網に組み入れられたため、御前埼灯台にも海軍防空監視塔が架設されました。

米軍のB29超機や艦載機の侵入空域に位置した御前埼上空は、昭和20年(1945)7月24日から28日まで、連日襲って来る艦載機の機銃攻撃を受け、レンズ、灯器、回転機械などを破壊され、光明を失いましたが、仮設の灯器を設置し、この危機をしのぎました。



映画「喜びも悲しみも幾歳月」のロケ

昭和32年(1957)に松竹映画「喜びも悲しみも幾歳月」のロケーションが、佐田啓二、高峰秀子らを御前埼に迎えて行われました。静岡県浜松市出身の木下恵介氏が原作・脚本・監督としてメガホンを取りました。

映画本編で戦時中の空襲を受ける場面、そしてクライマックスで悲しみ育て上げた娘が、結婚して婿と共に外国へ旅立つ船を御前埼灯台の跡場から見送るという、物語の最も重要なシーンの収録が行われました。



国産第三等大型フレネル2面レンズ

昭和24年(1949)、本格的に復旧工事が行われ、国産第三等大型フレネル2面レンズに変わりましたが、130万カンデラと戦前の2倍近い光度となりました。

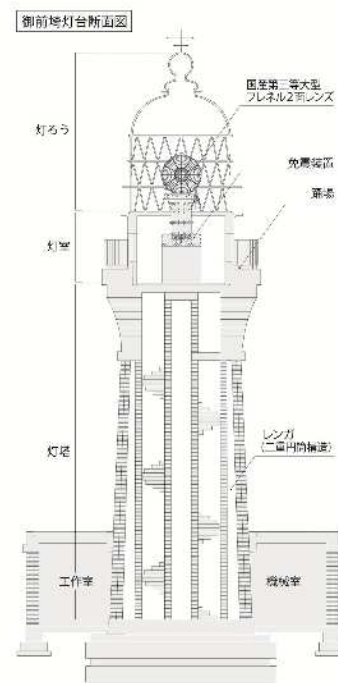
現在の光源は、長さ10cm程度のメタルハライドランプを使用し、実効光度が56万カンデラとなっています。

※光度表記が平成14年に世界測地系に変更



灯台正面入口上部 竣工銘板

ILLUMINATED 1st MAY 1874
明治七年 甲戌 五月 一日 初照



レンガ(二重円筒構造)

平成28年(2016)の改修工事で、灯台の外壁と内壁の間に空洞になっている部分が見つかったため、二重円筒構造であることが判明しました。御前埼灯台はレンガと石で造られており、レンガは長さだけの段、小口だけの段とを一段おきに積み重ねる「イギリス積み」です。



レンガ(北窓下のアーチ)



御前埼灯台断面図

